

表-4 ロース断面積における実測値と推定値の順位相関

	順位相関	$\frac{1}{2}$ 選抜の成功率
第 1 世代	※ 3871	5750
第 2 世代	4536	6522
第 3 世代	3329	6000

(6) 残された問題点

今後、測定部位、測定器具等を含めた体尺測定法全体を屠体形質推定のための測定値を得る方法として再検討し、改善することによりどの程度、正確度が向上するかを検討したい。

5 参考資料

試験成績報告書 49年度 京都府農業指導所

2 性別による豚肉の肉質について

1 背景と特徴

現在、肉豚として出荷されている豚は去勢と雌が大部分であり雄は殆どない。雄は飼料の利用率が優れ、屠体においても背脂肪が薄く、赤肉の割合が多く、産肉性が優れている。このような利点の多い雄の肉も雄臭を帯び、肉質が悪いという理由から、枝肉価格が極端に安くされているのが現状である。しかし90Kg以下の雄の肉はそれ以上大きなものと比較して雄臭が強くないと言われているため、もし性別による肉質に差がなければ肉豚生産において効率の増加につながる可能性がある。

2 技術の内容

- (1) 発育成績は雌より去勢が良い。
- (2) 去勢の肉質は雌より若干白っぽく、保水性が僅かに劣るが大きな差ではない。
- (3) テクスチャーにおいても殆ど差は認められない。
- (4) 発育成績は雌より雄が良い。
- (5) 雄と雌の肉質を比較してみると、色調は殆ど同じで雄の肉は保水性が若干悪く、硬い傾向があるが大きな差がない。

3 普及上の留意点

- (1) 肉質調査は90Kg時で屠殺した豚で行った。
- (2) サンプルは屠殺後48時間を経過した左半丸の第6～9胸腔部のロースを用いた。

4. 試験成績の概要

- (1) 試験課題名 種豚の地域環境別選抜試験
- (2) 試験年次および場所 昭和46年～ 岩手畜試
- (3) 試験方法

調査豚は雌と去勢の比較を種豚の地域環境別選抜試験の第1世代調査豚(雌25頭、去勢69頭)で行った。調査豚は30Kg時より同腹豚2頭群飼で新産肉能力検定飼料を不断給餌し、90Kg到達後屠殺した。雄と雌の比較は第3世代の2産目の豚(雄25頭、雌26頭)を用い、1腹群飼で新産肉能力を不断給餌し、90Kg到達後屠殺した。

(4) 試験結果

- ① 発育成績(DG)は去勢81.9g、雌72.5gであった。
- ② 去勢と雌の肉質を比較した結果、色調では明度と黄色度において去勢の方が高い傾向を示し、保水性は雌が2%程高い傾向を示したが統計的には有意ではなかった。
- ③ テクスチャーにおいても有意差は認められなかった。
- ④ 発育成績(DG)は雄68.8g、雌62.5gであった。
- ⑤ 雄と雌の肉質を比較した結果、色調では雄の方が明度、黄色度が高い傾向にあったが統計的には有意でなかった。
- ⑥ 保水力でも雄が2%程低く、テクスチャーでも雌より硬く、肉の内部結合力が強い傾向が見られたが統計的には有意でなかった。

(5) 主要成果の具体的データ

表-1 去勢と雌の肉質の平均値の比較(春子)

形質		明度	赤色度	黄色度	保水性	硬さ	凝集性	付着性	弾力性	D・G
去勢	n	60	69	69	58	56	60	59	62	70
	\bar{x}	45.4	13.7	5.2	66.1	7.7	0.44	0.24	1.24	81.9
雌	n	25	25	25	21	24	25	24	25	25
	\bar{x}	44.4	13.6	4.7	68.1	7.6	0.42	0.25	1.25	77.25
有意性		NS	NS	NS	NS	NS	NS	NS	NS	※※

表-2 雄と雌の平均値の比較(秋子)

形質	明度	赤色度	黄色度	保水性	硬さ	凝集性	付着性	弾力性	D・G
雄	n	25	25	25	25	23	23	23	24
	x	43.8	10.5	4.6	65.7	6.1	0.44	0.21	6.88
雌	n	26	26	26	26	23	23	23	25
	x	43.3	10.6	4.3	68.3	5.5	0.41	1.18	6.25
有意性	NS	NS	NS	NS	NS	NS	NS	NS	※※

(6) 残された問題点

- ① 雄と去勢の肉質の比較は上の表では試験年次、季節が異なるため一概にはできないので、
发育成績も含めて検討したい。
- ② 雄肉の雄臭についても何らかの方法で検討したい。

5 参考資料

- (1) 試験成績報告書 昭和48年度 岩手畜試
- (2) 日本養豚研究会誌 昭和50年度12巻2号 武田丹羽等